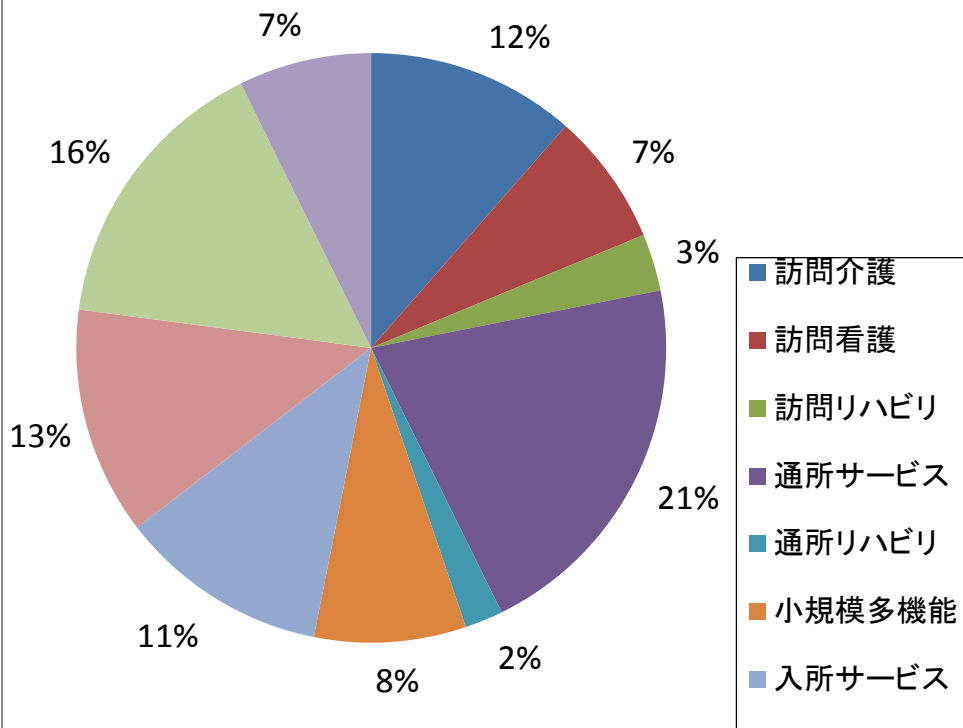


地域密着型総合ケアセンターきたおおじ 施設長 杉原 優子 氏

テーマ「その人の暮らしと介護、そして地域をつなぐ」

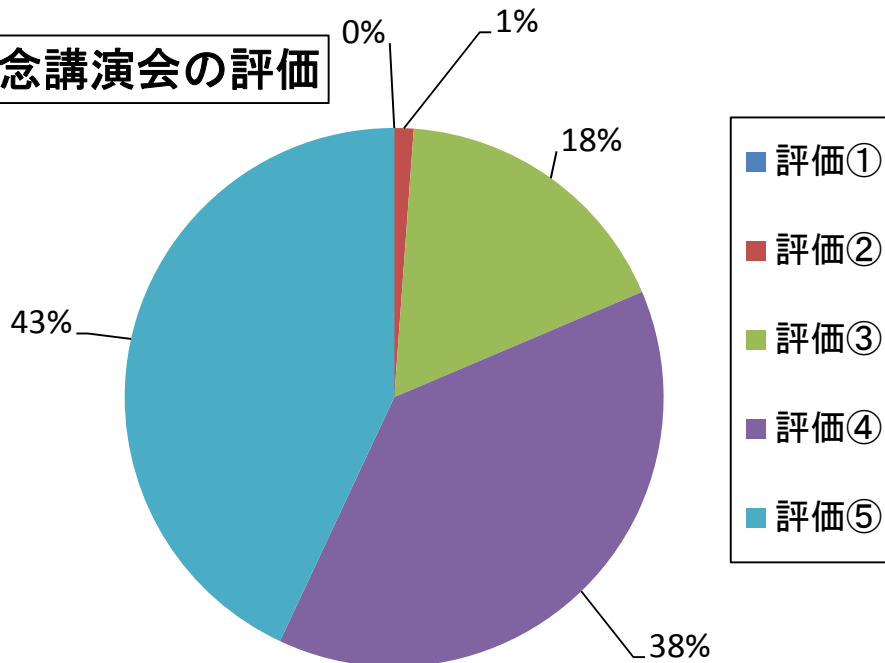
参加者130人 回答者86人(回答率66.2%)

参加事業所の内訳



訪問介護	11
訪問看護	7
訪問リハビリ	3
通所サービス	20
通所リハビリ	2
小規模多機能	8
入所サービス	11
グループホーム	12
居宅介護支援	15
その他	7
計	96

記念講演会の評価



評価①	0
評価②	1
評価③	15
評価④	33
評価⑤	37
計	86

3. 今回の研修であなたが感じられたこと、学ばれたことをお答えください

<地域密着>

- ・「施設に入所すると施設の中で完結させるのはなぜか」 そういう疑問をもたなかったが、施設も地域との繋がりを常に意識していきたい
- ・地域密着の本当の意味が、わかった。ありがとうございました。
- ・複数の社会福祉法人が連携し総合ケアセンターをつくることは、地域密着でき切れ目ないサービス提供ができ良い
- ・利用者と地域の交流は大事と感じた 3
- ・地域密着は理解するが、京都市内と地方では環境が違う。
- ・地域密着型のケアのようになればと思った。利用者のことを知り、対応していければと思った。
- ・地域との繋がり方について学んだ
- ・地域の中での暮らしの考え方、具体的な話が、活かされる内容でした。
- ・地域から得られる様々な力、近所と施設の関係づくりの大切さ
- ・地域密着のいいところが聞けた。大きな施設は、それなりの良さや役割はあると思った。
- ・地域を支えることについて、具体的に勉強できた。
- ・孤立してない施設でありたいと常に思っている。地域密着していれば、利用者も職員も安心して暮らせると思う。
- ・地域密着で一人の利用者を支える・・・ということが、どんな事か少しわかった気がする。

<利用者に対して>

- ・利用者一人一人に対し細かく気づかいする大切さを学んだ
- ・利用者の環境に沿った介護のあり方、その考えへの転換を教えていただいた。ありがとうございました。
- ・認知症の利用者の生活リズム、生活歴、地域との繋がりの評価をすることが、利用者、介護者の負担軽減につながると再認識
- ・本人の生活や人生をつなぐ支援を学んだ
- ・認知症、高齢者が外へ出たり、帰宅願望があるのは、理由があると思うので、利用者の立場で理由を考えるべき
- ・利用者の生活を大切に、どう介護するのか、生活をつないでいくのか、職員として何ができるのか、なにを今後学ぶのか、色々考えさせられた
- ・途切れない人間関係、ケアの発想転換が、個別ケアにつながると感じた
- ・利用者の今までの、人生、暮らしを大切に本人の思いをくみ取ることや、途切れた人間関係、家族との関係をつなぎ直すこと
- ・個別ケアの大切さを知っていてもどうすればいいか分からなかったが、今回の研修で何が大切で、どうすれば良いか、分かったような気がします。実践します。
- ・関係性を「つなぐ、切らない、奪わない」と言う言葉が印象に残った。介護技術者だけでなく、利用者の暮らしに関する生活の視点を大切にしたいと思う。
- ・利用者を中心に考えるのは当然であるが、忘れがち。 忘れないようにしたい。
- ・利用者本位と言いながら、どこまでできていたのか考えさせられた。利用者さんの生活をどこまで理解できるかが、今日からのテーマです。
- ・利用者の持っている物、人とのつながりを途切れないよう支援したい。身近な地域で、その人の生活を支えるにはどうしたらいいのか。私たちも、いつも課題にしています。

- ・施設利用前の生活を詳しく知ることが、「生活の継続性」に立ったケアができると感じた。
- ・その人の、これまでのつながりや生活をつなぎ続けることを、今一度考えたい。
- ・住む場所を変える、何かを捨てる…。重い言葉だった…。
- ・人生そのものを大切に感じるものを、私たちは大切にしていきたいことが重要
- ・利用者が、本当に大切にしている物は何か、それを知ろうとしているのか。一緒になって大切にしているのか。もう一度考え直したいことが、たくさんありました。
- ・利用者の気持ちをしっかり受け止め支援していくこと。
- ・利用者本位のケア、環境を整える。その方の生活歴等を考慮し利用者支援にあたること
- ・介護が必要となっても、それまでの生活(価値観)を大事にできるかわりを、今まで以上に意識して取り組みたい。
- ・利用者の大切なつながりを尊重した介護サービスの提供を心がける
- ・忘れかけていた、利用者への思い、関係性、つながりを大切に、実践していきたい。
- ・個々の利用者への支援は、一人で判断できない。職員全体で情報収集も必要。また、家族との連携も大事。
- ・暮らしの流れをつなぐ、つなぎ直すということは、利用者が自分らしく暮らしていける第一歩になると思った。最後のミカン箱3つもうなずくところがあった。
- ・住む場所を変える大変さ、本人の不安感に改めて気づかされた。
- ・「つなぐ」という事が大切で、難しいことだと思いました。
- ・利用者の日常生活を深く知ることが大切であると学んだ。通所の時だけの観察では不十分と再認識した。
- ・利用者の人生、生活の流れを知って、そのことを尊重することの重要性
- ・利用者の環境等を変えずに(捨てずに)今までの生活履歴に合わせたケアができるが、私たちの使命であると思った。
- ・利用者が主人公の介護をしていきたい。

<施設のあり方>

- ・施設の中で完結させることに、疑問を感じながらも、施設外へ生活をどう広げていいかわからず、リスク回避のため無理やり自分を納得させてきた。いいヒントを頂いた。
- ・職員が作る環境に気を付けていきたい
- ・その人が、大事に思っている物を捨てるのは、とてもつらいこと。できる限りその人の思いを叶えてあげることが、今後の施設の課題。難しいことだが。
- ・施設の枠を越えた関わりができることを学んだ
- ・同じ小規模多機能として介護の方向性が確認できた。自分の日頃の仕事内容、心の持ち方を再確認できた。
- ・介護する側が変わる必要があることは、現場にいるとよく思う。介護される側の思いをくみとったり、想像したりできる感性が必要だと思っています。
- ・在宅での生活に限界は、そんなに直ぐは来ない。それぞれの力を借りて生活していくことを続けていけるよう考えていきたい。
- ・「従来の施設の場合」と言われるような施設で働いていて、どうすればいいのか。と考えることがよくあるが、まずは、一人一人のことを知ることから始めようと思った。
- ・認知症の方が外に出ていく(徘徊)…理由があることを改めて実感した。地域ぐるみで出入りできる施設になればと思います。
- ・施設の中だけで暮らしを完結させようとするという言葉に、通所サービスでも同じことが言えると思った。

・暮らしの流れ、関係をつなぐことを学びました。利用者さんとの関わりを、改めて気を付けていきたい。

・職員研修は大切と思うが、統一したケアをすることは、とても難しいと思った。 ”生活とは”とはと、考えるのは、とても良い事。うちの施設も鍵を掛けないので、良くわかった。

<その他>

・自分の信念を求めておられ、向上心を感じた。介護問題の解決は、どう考えておられますか？

・玄関を開け放しておくリスクは、誰が責任を負うのか。理想は理想。 サービス体制が支援を変えるのでは、根本解決にならない。

地域や社会を誰かが変えない限り、事業者側の自己満足に過ぎない。(助けてあげたつもり・・・)

家以外で安心して泊まれる人は稀。 今日の話は、在宅支援の意味が見えない。地域ケアごっこのような感じ。 ショートサービスは利用者不本意のサービスだ。

施設と自宅を二股掛けた、半端な対応は、「バスが無いから・・・」と同じ次元の発想に思う。100人の内50人救おうと思わず、2~3人助けられたらとの思いで施設を作ってほしい。

現在の資格制度や研修内容だけでは、将来の課題に対応できる人材は生れない。死生感や老いを専門的に理解するだけでは危険と感じる。

・グループホームで同じ経験をした

・介護に関し、同じ事象でも捉え方で関わり方が違ってくることを興味深く学びました。

・分かり易い内容だった。

・最後の5分に心打たれました。 深くかかわることって難しいですね。仕事・介護って何だろうとつくづく思う。

・人口別ケアの大切さ

・GHの管理者です。その方が、使っておられた物、途切れさせず、捨てず、住めるようにと言うことが、素晴らしい。

・限られた時間ですべて完結させようとしているので、少し違った視点から考え直してみるものだと思います。

・認知症への対応に苦慮しており、私たちの考え方を変わると見えてくるものがあるとの言葉を聞き、自分自身を見直さないと感じた。

・個々が今まで築かれた人間関係を生かし、できる限り地域で、その方らしい生活を続けていけるよう支援する大切さを教えていただいた。現場で実践された杉原先生のお話は、介護の立場、気持ちも理解された視点からの話であったので、良かった。 小鳥の話は、とても考えさせられた。

・最後の投稿記事(ペットの持ち込み)に関する話面白かった。介護経験30年の話(ミカン箱3つ)教えられた。

・リガーレの役割の大きさ、介護職員の教育のポイント、視点の高さ

・在宅の暮らしを支えるためにできる支援というが、具体的に聞いて良かった。

・小規模多機能をしています。あらためて、この事業展開をしていくことに前向きになりました。

・介護保険事業の役割を改めて学んだ。

・地域交流、人材育成の仕組づくりを学び参考になった。

4. 今後の研修会で希望するテーマがあれば具体的にご記入ください。

<人材、教育>

- ・新人を辞めさせないためにどうすれば良いか？
- ・新人育成の方法
- ・人財育成
- ・介護スタッフのねぎらい、スタッフ教育(教育という言葉も・・・?)
- ・介護職員のメンタルケア
- ・キャリアパス(職員からみたキャリアパス、法人としてのキャリアパス)

<実務、先進事例>

- ・認知症・・・細かく対応するのに気を付けること
- ・壊れた家族との関係を、どうして取り戻すか。
- ・地域在宅看取りで終末期を迎える利用者への支援
- ・看取りの場面における医療との連携
- ・地域包括ケアとは何かよくわからないので、しっかり知りたい。
- ・在宅サービスや社会資源を活用した在宅での終末ケアの実現について

<意見交換、事例報告>

- ・通所、訪問、入所、各施設での困難事例の報告会
- ・参加者の意見交換できる、グループワーク

<制度等>

- ・国の公的なサービスでない独自の支援方式など、実践している所が、マスメディアで紹介されています。
- ・介護の問題、課題は、その枠を越えた地域社会の取組次第なので人が住み続けられる、町づくりに良い講師(介護、福祉分野外)をお願いしたい。
- ・独自の取組で地域再生した市町の紹介
- ・改正介護保険
- ・介護保険、次期の改正について
- ・今後の福祉のながれ、高齢者施設のあり方
- ・介護ロボットの研修
- ・地域の自治会との交流について、どうすればいいか、教えてほしい。

5. その他、当協議会等に対する要望・意見などご自由にご記入ください

・役員は、理事や施設長でなく、プレイングマネージャー的な実践能力を持っている人が担ってほしい。

・杉原さんの介護に対する考えが参考になった。参加してよかった。

・有意義な時間でした

・今後も継続し、研修機会をつくって下さい

・業務多忙の中、様々な企画をありがとうございます。

・空調が寒かった

・事前に参加人数が分かっていたら、テーブル、資料は揃えてもらいたい。